岐阜県総合医療センターにおける今後の放射線治療の展開

岐阜県総合医療センター　放射線治療科　　梶浦雄一

① 当センターの現状について

現在はリニアック 1 台(Clinac21EX)での運用である.OBI が具備されているので,TPS である Eclipse のバージョンアップ,医師の増員,検証ツールの導入によって現在は IMRT の施設基準も取得でき,2017 年度には登録患者数は 500 件を超える見通しとなった．しかし 1 台の装置で対応するには限界に至っている．また IMRT も 前立腺癌と頭頸部領域の一部に対応できているのみである.

② 新放射線治療施設建設の計画 2022 年度を目途に，高精度放射線治療部門を含めて，手狭となった病院機能の拡充のために新棟建設の計画が公表された．放射線治療部門では現医療圏患者に対する放射線治療の高精度化，適応拡大のみならず，県内には未導入の定位放射線治療（体幹部も含む）の専用機も追加導入して，他県に流れている症例の受け皿になるための環境整備も考慮している．具体的には以下のような構想で導入を考えている.

1）定位放射線治療専用機：体幹部まで想定している

2）高精度放射線治療機器：直近の患者数から，数多くの例に IMRT 等の高精度放射線治療を展開して行くには 2 台の装置の導入が不可避である．また，4DCT のデータを有効に活用できる IGRT のシステムの導入も必須と考える.

3）高精度の放射線治療を実現するための高精度の計画用の CT を導入する

・造影画像が治療計画に使用できる

・dual energy imaging が可能である

・金属アーチファクトが治療計画に支障を来さないレベルに低減できる

・IMRT 個舶用に支障を来さないような，大きな FOV が得られる

・4DCT がルーチン業務で取得できる

4）放射線治療情報システムの更新

・最新の装置のデータも確実に管理できる

・各装置の治療計画のデータを DICOM-RT で一括管理できる

・連携する他施設と治療データの授受が負担なくできる

当センターでも放射線治療の施行率は本年度でようやく 25%超となるが，国内の先進施設には遙かに及ばない状況ではある．しかし装置を含めた放射線治療システムの高精度化の整備が，適応拡大が可能となれば，県内他施設でも同様の取り組みを積極的に進めていただけると考えている.